

よこつる通信

Vo.09

2019.09.05 発行

発行責任者

地域医療連携室 西尾/池住

電話 045-371-2511

第6回 健康セミナーのお知らせ

動悸、息切れなどは、心臓疾患の代表的な症状ですが、どうしたらいいかわからず意外とほったらかしにされてはいないでしょうか(・・?) また一方で、そのような症状の原因は、心臓疾患ではなかったり、必ずしも心配する病気とは限らなかったりもします。当院において、どのような検査があり、どのように行われているか具体的な話が聞けるかと思えます。もし自分の体の中で思い当たることがあれば、ぜひ参加してみたいかでしょうか。



テーマ「動悸・息切れを感じたら」

月日 10月4日(金曜日)

時間 13時~13時40分

講師 川又副院長(循環器内科)

場所 外来待合室

みなさんお気軽にお立ち寄りください。

職員の紹介 令和元年に入職された職員の中から、一人職員の紹介をさせていただきます

1.自己紹介をお願いします

今年4月1日に看護副部長に着任いたしました、綿貫と申します。実は、十数年前にこの横浜鶴ヶ峰病院の外来で看護師として数年働いていた経緯があります。ここ何年かは、看護学校で教育の仕事に携わっていました。また病院で働くこととなり緊張していますが、いろいろな方に助けて頂きながら頑張っています。



看護部 副部長

綿貫 真美《わたぬき まみ》

2.当院の印象は?

久しぶりに訪れた印象は、来院患者さんが増え活気を感じました。身の引き締まる思いです。

3. 普段のお仕事で大切にしていることはなんですか?

大切にしていることは人との関わりです。

超高齢化、核家族化が進んでいる中、年齢差のある世代間で介護や看護が行われています。

世代の違いだけではないのですが、自分ではそんなつもりはなかったのに…、わかってきてると思っていた等、コミュニケーション上のズレが起こりやすくなっていると思います。どんなに医療や看護が進歩してきているとはいえ、人の手によって行われることがほとんどですから、関わる時の思いやり、気遣いは意識して大切にしようと心掛けています。



4.地域のみなさんへのメッセージをお願いします?

自分ができることを精一杯発揮し、地域の皆様の健康を守ることに繋がっていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

今月のお知らせ

呼吸器科

8月29日付にて

木曜日 午前 臼田医師の診察は終了となりました。

※6月より毎週水曜日 井上医師による診察を開始しております。

よこつる掲示版



施設または病院に入院中の患者さまで外来受診される皆さまへ

受付をされ、外来での待ち時間が30分を超えてしまう場合には、「**外来受付**」へ施設、病院からの受診であることをお伝えください。医師に確認しまして、ご対応させていただきます。

当院では、患者さまの受診から会計までの待ち時間短縮に取り組んでいますが、なかなか満足のいく結果となっていない現状があり、皆さまには大変ご迷惑をおかけしております。「**外来待合室**」には一般テレビと医療情報を表示する**モニター**を設置しておりますので、外来診療に関するご案内や健康に関する動画やクイズなどもやっておりますので、ぜひご覧になってください。



放射線科（ラジエーションハウス）のご紹介

放射線科副科長 朝崎

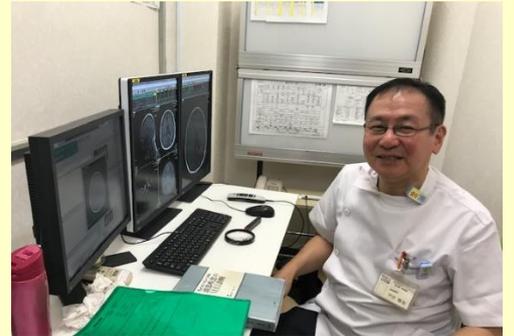
こんにちは！横浜鶴ヶ峰病院放射線科です。病院にある放射線科ってなにをしているの？レントゲンの写真を撮るところだというのは何となくわかるけど、その他に何やってるの？レントゲンなんてボタン押せばだれでも撮れるでしょ？など疑問を持った方は多いのではないのでしょうか。最近、「ラジエーションハウス」という放射線科を舞台にしたTVドラマのおかげで、放射線科について少し認識されるようにはなりましたが、まだまだ一般の方には知られていないのが実情です。この機会に、当院放射線科の仕事や医療における役割等を紙面の許す限りお話していこうと思います。

横浜鶴ヶ峰病院放射線科は、画像診断の専門家である放射線診断専門医の平岩医師を筆頭に技師 10 名が在籍する大所帯です。放射線科の仕事は、放射線と名のつくものすべてに関わっています。まずは放射線科専門医による画像診断。ほぼすべての画像を放射線科医が診断しています。また、放射線科専門医更新のため、毎年の講習会を受講することで最新の診断知識を得ています。

診療放射線技師は、胸部や骨などを撮影するレントゲン写真、ほぼ全身を輪切りにして見ることができるCT検査、胃バリウム検査、マンモグラフィー検査、骨密度検査、骨折したときに

骨の位置を戻す整復や内視鏡を使って胆嚢や膵臓を見る透視撮影検査、動けない患者様を病室で撮影するポータブル撮影、手術中に撮影する術中撮影などの様々な撮影業務を行っています。また放射線の専門家として、患者様の被ばく線量の管理、医師や技師、看護師などの医療従事者の被ばく線量の管理、放射線機器の保守管理、毎日の機器点検など非常に多岐にわたっています。放射線以外にも磁気を使ったMRI撮影は放射線技師の仕事です。撮影や放射線機器の管理が主な仕事だと思われる方が多いと思

ますが、実は写真を作るという事も大切な仕事です。フィルムでの撮影が主流だった時代では、撮影条件、写真を現像する温度、現像する時間、定着液につける時間、それを洗い流す作業、乾燥のすべてを厳格に管理していないとまともな写真を出すことはできませんでした。現在はすべてデジタル化されて以前のような厳格な管理は必要なくなりました。しかしデジタル写真は色の濃さや輪郭のクッキリ感などを自由に変えることが出来るため、その写真をいかに見やすく処理をおこなえるか（画像の最適化といいます）で写真の出来に大きな違いが出ます。さらに画像データが数千枚と膨大な量になるCT検査などは、担当技師が画像から異変を見つけ出し拡大や細かく再構成した画像を作成したり、パソコンを使って立体画像を作成するなど、診断の補助になるような写真を作ることも放射線技師の重要な仕事です。また、画像診断検査は、病気や撮影部位により検査方法も異なるため最適な検査法を放射線科医と協議しながら検査を行っています。これら全ての事が診療放射線技師の仕事です。



放射線診断専門医 平岩先生



胃 X 線読影



もうわかりいただけと思いますが、撮影だけではなく検査方法、画像処理、画像作成にはより高度な専門知識が必要で、最新の医療技術に遅れないような日々の努力が大変重要です。当院の技師は、日本 X 線 C T 認定技師 1 名、肺がん C T 検診専門技師 1 名、検診マンモグラフィー認定技師 4 名（女性技師全員）、胃がん検診専門技師 7 名と全員が何らかの専門資格を取得しています。さらに 5 年ごとの更新試験や新たな専門資格取得に向け学会参加や研修会に参加し常に最新の医療技術の習得を心がけています。

これ以外の活動では、昨年 8 月には某〇〇信用金庫の会議室にて「低線量肺がん C T 検診の有用性」と今年 3 月には「MRI、MRA でわかること」について地域の皆様に講演を行い大変ご好評を頂きました。

現在の医療は、それぞれの分野で専門性が高く細分化されています。しかし画像診断は、写ったものすべての異常を理解していないとできません。チーム医療の中でも画像診断の果たす役割は非常に大きく、今後もより良い画像情報を提供し続けるため医師、技師ともに努力を続けてまいります。

横浜鶴ヶ峰病院「ラジエーションハウス」は病院では裏方のため、あまり表には出てきませんが、今回のお話で放射線科の役割を少しでも多くの方に理解していただければ幸いです。



CT 画像作成



MRI 検査



編集後記／池住

地域医療連携室では、皆さまの意見を取り入れ地域に密着した医療を提供するために、さまざまな活動しております。どんなことでも構いませんので、お気づきのことがあればお気軽にご連絡ください。